

令和3年度第9回 感染症発生動向調査部会

令和3年12月15日

月番：加藤 達雄

1 前月の感染症発生動向について（2021年第44週～47週・11月）

<全数把握対象疾患>

- ・結核は、44週～47週に結核と潜在性結核が13例ずつ同数報告された。累計では、対前年同期比84.8%で減少している。潜在性結核感染症は増加しているが、結核は77.7%と大きく減少している。
- ・ツツガムシ病が12例報告されており、前年、前々年と比較して多く報告されている。
- ・後天性免疫不全症候群の報告は0例で、累計でも対前年80.0%と減少している。
- ・新型コロナウイルス感染症は、11月に急速に減少している。

<定点把握対象疾患>

- ・インフルエンザの報告は3件であり、本年も流行はみられていない。
- ・RS感染症も例年の流行時期であるが、報告数は減少している。
- ・感染性胃腸炎は、41週以降増加傾向にある。

2 検討すべき課題

- ・新型コロナウイルス感染症の減少に伴い、県民の行動が変化しているが、このことでインフルエンザ、RSウイルス感染症、感染性胃腸炎などの流行が今後見られるかどうか。

<保健環境研究所から>

- ・全国の感染症発生動向について（インフルエンザなど）

3 情報提供（月番委員専門分野から）

- ・新型コロナウイルス感染症（COVID-19）診療の手引き 別冊 罹患後症状のマネジメント（暫定版）

4 その他（感染症対策推進課から）

- ・認定こども園での腸管出血性大腸菌感染症（O145）の発生について
- ・令和3年度 国内における鳥インフルエンザ発生状況
- ・「ヒトパピローマウイルス感染症に係る定期接種の今後の対応」及び「予防接種法第5条第1項の規定による予防接種の実施について」の一部改正について
- ・乾燥細胞培養日本脳炎ワクチンの供給について（更新情報）
- ・感染症の予防及び感染症の患者に対する医療に関する法律第12条第1項及び第14条第2項に基づく届出の基準等について（一部改正）（新型コロナウイルス感染症 発生届の改正）

<検討結果>